

(別紙4-1)

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175400365		
法人名	特定非営利活動法人 ありがとう		
事業所名	グループホーム ありがとう		
所在地	北海道紋別郡遠軽町西町2丁目1番地218		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://index.php?action.kouhyou_detail.2011.022.kani=true&amp;JigvosvoCd=0175400365-0">/index.php?action.kouhyou_detail.2011.022.kani=true&amp;JigvosvoCd=0175400365-0</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年3月29日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅地にある2ユニットのグループホームで、周辺は山菜などが採れる自然に恵まれた環境にあります。建物は1号棟・2号棟が異なった造りの平屋建てで通路で繋がっており、ユニット間の交流が日常的に行われています。共有スペースは共にゆったりとした造りで居間は大きく取られた窓や明かり取りの窓からの日射しが気持ちの良い空間を作っています。「安心して 自由に 主人公として楽しく暮らせるように」との理念の基、職員は常に利用者の視点に立ち思いやりを持ったケアの実践に努めています。介護度の高い利用者が多い中で体力や健康維持のための体操を日課とし、職員はスタッフアンケートを実施し、日常のケアに活かすと共に次への取り組みに役立て、利用者一人ひとりの生活の活性化に結びつけています。事業所では職員が余裕を持って利用者のケアに当たれるように勤務体制を充実させ、職員の希望を優先した働きやすい職場環境を整えています。更に、利用者の状態に考慮し、1号棟に対しては夜勤2名を配置し、利用者、職員双方の安心が得られています。職員は散歩や毎月のカレンダー作りなど、利用者のできることを一緒に取り組みながら笑顔で楽しく過ごせるよう日々研鑽しています。</p>
---

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	0 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	0 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	0 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、十分に理解し実践していると思われま	理念は居間に大きく掲示され、事務所、職員の休憩室にも理念と共に職員姿勢、介護の10ヶ条、介助理念を掲示し、職員は日々振り返り具体化を意識し取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人クラブに参加させて頂いています。	町内会に加入し地域活動の開催情報を基にカラオケに出掛けたり事業所行事に声かけするなど地域交流を図ろうと努めています。週1回のお話ボランティアや手打ちそば同好会、民謡の慰問を楽しみとしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加させて頂く時は、事前に連絡、打ち合わせをさせて頂き、利用者を理解して頂くように努力しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、2ヶ月に1度開催し利用者の状況等など報告し、ご意見を頂いております。	町福祉課主幹、保健師、包括支援センター職員、家族代表等が参加して2ヶ月に1度開催し、状況報告や今後の予定等で意見交換が行われ、情報を得るなどで運営に活かしています。	地域住民の参加が得られていない状況にあります。地域の理解と協力が得られるよう働きかけると共に、家族に会議内容の共有を図る工夫を期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各役所担当の方々には、相談アドバイスを常に、頂いています。	町担当者や包括支援センターとは主に運営推進会議の場で事業所の取り組みを伝えながら情報や助言、協力を得てサービス向上に活かしています。包括支援センターとは毎月待機状況の説明、連絡を行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護施設で働くからには、当然のことで、各自理解し又、指導もしています。	職員は研修を通じて学ぶと共に、言葉がけ等のグレーゾーンについてもその都度確認する場を設けています。又、身体拘束廃止の基本方針を事務所、休憩室等の目の付くところに掲示し、正しい理解に繋げています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	同上と同様に、当然のことだと考えスタッフ同士互いに注意、報告するようにしています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、ご指摘頂きましたので制度の情報を回覧しています。質問等がありましたら、即時対応するようにはしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間の許す限り説明、文章等の配布をさせて頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護福祉専門員を窓口にし、スタッフ等と相談して行っております。又、要望を伺う手段として、アンケートなどをとる予定が実行できなかったことが来年度の課題になるかと思われます。	ホーム便りや家族の来訪時、電話時に利用者の様子を伝え話を聞く機会として意向の収集に努め、コミュニケーションを図っています。家族の要望を汲み取る場としてアンケートの実施に取り組もうとしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	折に触れ職員に声をかける様にし、提案など聞き報告をしています。	利用者の状況を把握している職員を通して個別に意見を聞き、現場に活かしています。職員は資格取得に向け意欲的でモチベーションは高く、職場環境の充実に繋がっています。	全職員が参加するミーティング、会議等が全く行われていない状況にあります。職員の意見や提案ができるような会議システムを構築し、全体での質の向上を図ることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の環境に応じて対応し、加算請求等も増やし給与に反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、介護福祉士試験にも数人受験し、町内外の研修にも参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に出席することにより、多くの方々と会う機会があり、交流を深めていると思われます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談の時間を大切に、互いに理解を深めるように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しても、本人同様関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ショートなど利用して頂き、生活状況など確認して、希望に沿うように対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに協力しながら、生活させて頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方々には、利用者の状況を報告させて頂き協力して、支援に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、来所して頂けるようにと、家族の方々にはお話しています。又、多くの親類、友人の方々も面会にお見えになっています。	利用者が今まで大切にしてきた理美容院や行きつけの店での買い物支援、友人の来訪や友人等の家に出掛けるなど、継続的な交流をできるよう働きかけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は、各棟を行き来し行事等でも交流を深めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、声をかけて頂くことも多くあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聞き、計画書を作成し同意を得るようにしています。	担当職員は利用者本人との話し合いを通してモニタリングし、思いや意向の把握に努めています。困難な場合は日々の関わりの中での行動や表情などから汲み取り、本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族には、本人の情報を詳しく記述して頂き入居後も、行動・言動を聞き、計画を立てるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を記録し確認しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報をもとに利用者へ合った計画の作成に努めています。	ケアマネージャーによるアセスメントを含め、担当職員のモニタリングや本人参加のサービス担当者会議を行い、本人にとって一番良い方法を検討し、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を参考に、利用者に変化が起きたときには、速やかに職員と相談し対応するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化が起きた際には、速やかにスタッフと相談し変更をかけるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然の中に建物があるので、散歩に出かけたりすることも多くあります。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診予定を作成し、其のつど利用者の状態を報告しています。又、変化があった際は、家族に報告しています。	利用者のかかりつけ医への受診は予定表を作成して対応し、変化があった場合は家族へ報告しています。家族対応の受診時には同行するか、状況書類でお知らせして適切な医療を受けられるように支援しています。看護師と週1回の契約をして健康管理に役立てています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問の際には、利用者の状態を報告し、状況に応じては受診にも立ち会って頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診、入院の際は、状態を伝え、入院後は家族が中心にはなりますが、当施設でも協力をさせて頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、利用者の変化に応じ説明をさせて頂いています。	重度化した場合や終末期の看取りについては、契約時に事業所での取り組み方針を説明し、同意書を得ています。現在は医療の体制が整っておらず、取り組みは難しい状況になっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急、職員連絡網など掲示し、マニュアルも用意してあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2度、行っています。	年2回消防署の指導のもと、夜間想定等の訓練や、毎月1回コンセントの周囲や気になる個所の自主点検を実施しています。災害時の持ち出品リストや、地域住民の承諾を得て緊急連絡網を作成し、体制構築をしています。	自動通報装置使用や、地域住民参加等の訓練と、あらゆる災害対策の体制構築を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が使用するものについては、目隠しなどをして人目に付かないように配慮しています。	利用者個人名の記入されたファイルや、個人使用のバット類はカーテン等で隠し、目に触れないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	計画作成をする際でも、利用者やゆっくり話を聞き、希望など取り入れるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前年度よりは、会話を愉しむことが多くなってきているように感じていますが、もっと努力が必要な気がしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来て頂いています。又、整理整頓に心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、準備、片付けなどできることは一緒にしています。	利用者の好みは会話の中から把握して施設長が献立をつくり、職員が調理しています。買い物や準備を利用者と共に行い楽しい食事となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の状態を記録し確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各食後に必ず、スタッフが協力して口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄も記録に残しています。自立の方は見守り、支援の方は、時間誘導に心がけています。	生活リズムパターン表と生活記録に排泄状況を記入して、その人のリズムに合わせた時間誘導や声掛けをしてトイレでの排泄支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病院で処方して頂いている薬以外でも、玄米コーヒー、ヨーグルト、体操など便秘対策に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一定の日程はありますが、個々に合わせて対応しています。	生活リズムパターン表と入浴記録で入浴日、時間を把握して一人ひとりの希望や状況に合わせて支援しています。3日に一度を基本としていますが、毎日の利用者もおり楽しい入浴支援を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はありますが、各自に合わせて昼寝などして対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬はスタッフ管理で、其のつど服用しています。処方箋も個人ファイルに綴じて、確認出来る様になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じて行事を行い、利用者によっては地域の行事にも参加させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を聞き、自宅に出かけたり、親戚宅に出向いたりしています。	気候が良くなると日常的に付近への散歩や買い物等へ行ったり、ドライブで他町村の公園や自宅を見に行ったりと希望に合わせて外出できるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を頂いて、お金を預かり買い物や受診のときに使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日に何度か掃除をし、常に清潔に保つよう心がけ、季節に合わせた飾りつけもしています。	二つのユニットが別々に建築されたので同じ間取りではありませんが、どちらも広い間取りで作られており対面式の台所で調理の様子が伺えるようになっています。大きく書かれた筆文字の理念や、手作りカレンダー、誕生日に家族から贈られた生花と居心地良く過ごせるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席も決めず自由に会話できるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具等を持参して頂くように説明させて頂いています。	利用者一人ひとりの居室には、ベット、筆筒、椅子等の使い慣れた家具や家族の写真、絵が飾られ自宅同様に居心地良く生活できるように工夫されています。又、介護用のベットが必要な利用者には事業所で用意をし、支援に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	用途に応じて目印を付けて、自力で行動できるようにしています。		